

さりげなく、潔い ダンディズムがゆとりや 自信をもたらし

スーツスタイルが素敵な男性を称えた
いとき、「ジェントルマン」あるいは「ダン
ディ」、そのどちらかの呼称が、とくに区
別されることもなくあてはめられる場
合が多いようですね。でも、スーツを生ん
だ国イギリスにおいては、歴史的に、この
2種類の男には違いというカズレがあり
ました。

まず、「ジェントルマン」ですが、きわめ
て大雑把にくくつてしまうと、ジェントル
マン階級とは、支配階級のことでした。も
ともとは、経済的な実態がある大土地
所有者がジェントルマン階級に属しまし
たが、富と権力を持つ人が野蠻だったら
困るわけで、そこに抽象的な理念が加
わったのです。支配階級の男にふさわし
い理想像、それが「ジェントルマンらしさ」。
この理念が、刻々変わる時代に応じて読
み替えられつつ、いまにいたるわけです。
たとえば、王権が強かった17世紀の場
合、ある詩人が、次のような資質を「ジェ
ントルマンらしさ」として列挙しています。
「若々しさ。氣立てのよさ。立派な仕事。
遊び。好ましい人付き合い。中庸・節度、
そして成熟」。また、中産階級が続々と支
配階級のなかに参入してくる19世紀の
中頃になると、「謹厳、誠実、努力、質実
剛健」といった中産階級的な徳目が、ジェ
ントルマンにふさわしい美德として重き
をなしていきます。ほかならぬこの時代
の理念が、同時期に完成したスーツとと
もに世界へ広まり、明治初期の日本にも
入ってきたわけですね。

一方、「ダンディ」は、やはり支配階級に
属する男たちに変わりありませんが、19
世紀に登場した彼らは、むしろ主流の
ジェントルマンらしさに抵抗することで
その存在を際立たせました。現在、ダン
ディというのは単にしゃれ者をさすこと
も多いですが、「おしゃれをする」という
そのことじたいが、まじめに働いて生産
活動に励もうという中産階級のな美德
に対しての抵抗だったわけです。おしゃ
れというのは、財産の浪費、時間の空費
でもありませんから。2時間もかけてネッ
ククロスの失敗作の山を作りながら完璧
に装う、というダンディの祖ブランドは、
その空疎な蕩尽によって、生産性に価値
をおく態度を愚弄していたわけです。

時代が変わり、本流の価値が変われば
当然ダンディズムの表現も変わります
が、そのエッセンスは常に、主流の価値に
対する抵抗にあります。

21世紀、グローバルに活躍するビジネス
マンは、ジェントルマンらしさとダンディズ
ム、その魅力のいいとこどりをすること
もできます。万人の信頼を勝ち取る王道
のクラシックスーツスタイルのなかに、効
率や生産性ばかりを偏重しているわけ
ではないぞ、というささやかな意志の表
現として、酔狂で美しい趣味を、時折ち
らりと見せるダンディズムを香らせるの
が理想ではないでしょうか。さりげなく
も深いダンディズムは、現代ではむしろ
その人の余裕や自信となって見え、好感
度を高めることにもつながるのです。



NAKANO Kaori

中野香織(なかのかおり) エッセイスト/服飾史家/明治大学特任教授
過去2000年の男女ファッション史から最新モード事情まで、幅広い視野から研究・執筆・レクチャーをおこなっている。東京大学大学院博士課程単位取得満期退学。ケンブリッジ大学客員研究員を経て文筆業。2008年より明治大学国際日本学部特任教授。著書『モードとエロスと資本』(東英社新書)、『ダンディズムの系譜 男が憧れた男たち』(新潮選書)、『愛されるモード』(中央公論新社)、『スーツの文化史』(フズムの神話)<文春新書>Kindle版)ほか多数。監訳『シャネル、革命の秘密』(ディスカヴァー・トゥエンティワン)ほか翻訳書多数。『英和ファッション用語辞典』(研究社)監修。新聞・雑誌・ウェブでの連載記事多数。

Hankyu MEN'S